

水の祀り

楸

水の面がおもてにわかににぎわう
音はない
取り込まれて
水中で響き 吸い込まれていくようだ
何も聴こえてはこない

水底では
魚たちの祀りが はじまっている
ぽつぽつと
命の火が灯る
一瞬間 揺らいで
それは放たれる
水面にむけて
まっすぐに駆け上がる

水面に命の環わが
拡がり
連なり
重なり
消えていく

いくつもいくつも

雨が慰めるように降っている